

八王子消化器病院ニュース

第67号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

— 患者様のための医療 —

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

TEL: 042-626-5111

www.八王子消化器病院.com

制作 (株)教育広報社



おおり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS



八王子市万町、地域とともに

八王子消化器病院 副院長

齋田 真

2020年1月、中国武漢で未知の病原体の可能性が指摘された時も、2月にクルーズ船でクラスターが発生した時も、あまり実感が湧かなかつたのは私だけだったでしょうか。その後、新型コロナウイルスの感染が世界中に拡がり、私たちの生活は一変しました。今まで日常であった出来事、家族とのショッピング、友人との外食、スポーツで汗を流す、アーティストのコンサート……。多くのことに制約が生じ「ロックダウン」「緊急事態宣言」等というセンセーショナルな単語が飛び交う中「これからどうなっていくのだろうか」と不安が募る日々を過ごしています。時間は十分にあるものの様々な制約がある中で、それを有効に使えていないのではないかと。今できることは、これからすべきことはどんなことだろうか。悶々とした生活の中で最近、私にとって印象的であった2つの出来事をご紹介します。

夢のバス会社 ～地元愛～

私が住む街には「銀河鉄道」という名前の路線バスがあります。「銀河鉄道」とは印象的なネーミングですが、1999年の設立年と著名なアニメーション「銀河鉄道999」にあやかっているのだそうです。常に混雑している大手鉄道会社のバスとは異なり、いつも空いているバス路線で、他人事ながら「大丈夫?」と思わずにはいられま

せんでした。ある時、その会社の社長の経営理念を目にしたところ、以下のような記述がありました。「私は、バスが大好きです。大手バス会社が撤退した地域や住民が陳情してもなかなかバスが走らない地域で、通勤や通学等に困っている人々の助けになるようなバス路線を運行したい」と。地域のコミュニティバスから始まったその経営は、地域住民の都心への通勤の足として、また現在の新型コロナウイルス禍の中での感染防止対策の一環として、東村山駅から新宿駅まで、毎日無料送迎バスを運行しています。東村山市出身の社長は、地元根差した地域貢献のために「をモットー」にされているとのことでした。

負い目を感じていた医療従事者の手記から

「……なかなか正体の掴めない未知のウイルスの恐怖に、泣きながら防護服を着るスタッフもいました。防護服の背中に名前を書いてあげながら、仲間を戦地に送り出しているような気持ちになりました。私自身も、自分に何かあった時にどうするかを家族に伝えました。幼い子供を遠くから眺めるだけで抱きしめることができなかったスタッフ、食事を作るために一旦は帰宅しても、できるだけ接触しないようにとホテルに寝泊まりするひとり親のスタッフもいました。家族に反対されて退職を希望するスタッフも出てくる中、様々な事情を抱えながらも、この病院が好きで働き続けるこの人たちを何とかして守らなければ、今の業務を続けていくことはできないと強く感じました。4月4日、「頑張れ、〇〇病院 地元有志一同」

の横断幕が目に入り「まだ私たちはここにいてもいいんだ」と思えました。涙を拭きながら非常口を開けたのを覚えています。支えてくださった地元の皆様には、本当に感謝しかありません。(中略)(2020年7月2日付東京新聞掲載)

同じ医療従事者として胸が詰まる思いがある一方、地域住民の方々のこの病院に対する感謝や期待を強く感じさせてくれました。

地域住民の足として支え続けているバス会社と地域医療に奮闘し続けている都内の病院。交通手段と医療の提供。職種は違えどもいずれにも共通していることは、地域社会に貢献する取り組みを行っていることではないでしょうか。地域社会との密接な関係を積極的に築いていく行動が、地域にとって無くてはならない存在に繋がっているのでしょうか。

私たち八王子消化器病院が今できること、これからすべきことは何か。新型コロナウイルスの感染が疑われるかかりつけの患者様の一次診療を行うことや新型コロナウイルス禍での消化器疾患の検査・治療が困難となった地域の医療機関を補完すべく診療体制を充実させることがあります。また、市民公開講座や医学講演等の地域医療教育、ロビーコンサート等の文化活動、地域のお祭り、市民スポーツ大会等のイベントへの参加、更には地域の高齢者や障害者の雇用等も挙げられます。

消化器疾患の中核病院として「頑張れ!八王子消化器病院!」と八王子の皆様から応援されるように、診療はもとより地域に根差した活動にも今後も積極的に取り組んで参ります。

もっと知りたい!

身体

治療

病氣

のコト

超音波検査について①

〜知っているようで知らない超音波検査〜

生理学・超音波検査科 富永 晋

超音波検査は、広く医療機関において実施されている検査法ですが、そもそも「超音波」とはどのような性質のものでしょうか。検査を初めて受ける方もおられるかと思いますが、今回、そこからお話をいたします。

「超音波」という言葉には「音」という漢字が使われていますが文字通り、この検査は「音」を利用した検査法です。音とは物質の中を伝わる振動を云い、1秒あたり1回の振動を1Hz（ヘルツ）という周波数で表します。人間の耳に聞こえる音の範囲の周波数は、概ね20Hz〜20kHz（1kHz=1,000Hz）と云われています。これより周波数が高く、人間の耳には聞こえない音を超音波と呼びます。その超音波を体外から身体の中に向けて当て、反射される超音波（これを「エコー」と云うため、同検査はエコー検査とも呼ばれます）の波を電気信号に変換し、体内の状態を映像化して疾患の有無や臓器の機能等を調べる検査が超音波検査です。

超音波の活用の歴史は、1912年に発生した豪華客船タイタニック号の沈没事故にまで遡ります。同事故を契機に、海中の冰山の位置を調べる方法として超

音波が活用されるようになりました。船舶から発せられた超音波が跳ね返って来るまでの時間を測定することにより3km先の冰山まで発見できるようになったそうです。医療用としては1950年代から研究が進んできましたが、特に注目を浴びたのは産婦人科領域における1976年の「山下さんの五つ子ちゃん」への応用で、これをきっかけに飛躍的に進歩したとの逸話もあります。

超音波検査は、産婦人科で胎児の観察にも用いられていることから、その安全性はお分かりいただけると思います。また、同検査から得られる情報は豊富であるため、疾患の診断、経過観察、治療効果の判定はもとより、治療のための穿刺等にも活用されます。

超音波検査の優れた特徴としては、以下が挙げられます。

- ① 体外式の超音波検査は、非侵襲的で患者様に苦痛を与えない。
- ② 超音波を用いた検査のため、生体への傷害がない（X線を使用しないため被曝がない）。
- ③ 特別な準備を必要とせず、操作が簡便である。
- ④ 様々な方向から観察が可能で、1回

の検査で多くの臓器を同時に観察できる。

- ⑤ 検査目的は、スクリーニングから精密検査、更に緊急時までと幅広い。
- ⑥ 実質臓器（消化器における肝臓・脾臓等）・脈管・胆管等の描出に優れている。
- ⑦ リアルタイムでの画像観察が可能である。
- ⑧ 検査の結果が即時に得られる（検査結果については、診察時に医師から説明いたします）。
- ⑨ 装置が小型であるため、検査の実施場所を選ばず移動性に優れている。
- ⑩ ドプラ法により血流の動態が評価できる。

一方、短所としては以下があります。

- ① 脂肪や骨、消化管ガスの影響を受けやすい。
- ② 身体の深部では超音波の減衰があり、臓器組織までの距離に画像が影響される。
- ③ 観察可能な視野が狭い。
- ④ 検査技師の技量がそのまま検査の精度に反映される。

なお、①②③につきましては、大きく息を吸っていただいたり、息止めや体位変換、水を飲んでいただく等、患者様の協力により軽減することが出来ます。また④の対策として、習熟度の浅い検査技師にはベテラン技師が付いてダブルチェックをすることで検査精度を担保しています。

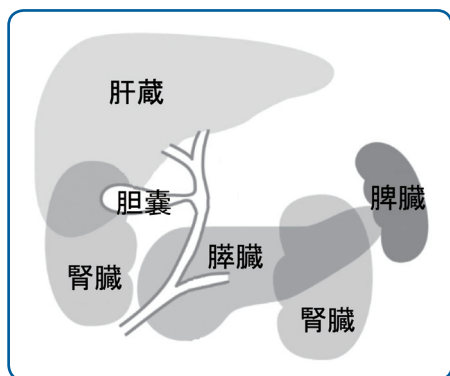
また、患者様からは「超音波検査では

どこを見るのですか？」との質問を受けることがあります。当院では、部位別検査として「腹部」「骨盤」「その他」の区分があります。「腹部」の場合に主に観察するのは、肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓です。「骨盤」では大腸・小腸・血管・大動静脈・膀胱に加え、男性では前立腺、女性では子宮・卵巣となります。「その他」では甲状腺、心臓、表在（皮膚表面に近い部分にできた腫瘍等を調べる）があります。

以上、述べてきましたが、これらの特徴を最大限に活かすには、検査技師の高い技能が求められ、そのためにも日々知識・技術の向上に努めると共に、数多くの症例観察が必要となります。なお、検査技師の一定水準の技能を証明するものとして、日本超音波医学会による超音波検査士の認定制度があり、当院には4名が在籍しています。

超音波検査では、検査技師と患者様との協力関係が欠かせません。より良い画像を映し出すためにも検査の際には、ご協力をお願いいたします。

腹部超音波検査の観察範囲



陶製鹿

「追憶」寄贈について

八王子消化器病院 友の会監査

久江 孝二さん



67

このたび、八王子消化器病院に「宮本果林氏作 陶製鹿『追憶』一体」を寄贈させていただきました。

この作品は、令和2年1月に日本橋高島屋で開催された日本陶芸美術協会(会長は第十四代今泉今右衛門氏、重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝)主催の公募展である第七回陶美展で入賞し、奨励賞を受賞した作品です。陶美展では200点の応募に対し、132点が入選し、さらにその中からこの作品を含めて12点が入賞作品とされました。

作者は、東日本大震災や水害など大変な被害に遭った多くの方々を想い、それらの大変だったことを追憶しながらも、前を向いて進んでいこうという希望を込めて製作したと述べておられました。

鹿の表面の古い皮膚の一部が

殻のように割れて剥がれ落ち、その下には再生する生命を象徴する植物の緑や花が見えます。鹿は脱皮するわけではありませんが、作者は再生する生命をそのように表現したわけです。ここに作者の着想の秀逸さやうかがうことができます。私共の寄贈の申し出に対して、理事長の原田信比古先生からは「患者さんが体に纏(まと)い付いた病氣という古い鎧(よろい)を打ちくだき、本当の生命を回復されることを願うという意味でこの作品は病院に展示するのに相応しい作品です。」と仰って下さいました。

作者は茨城県鹿島の出身でこの作品の「鹿」のモデルは鹿島神宮の御神鹿とのこと。鹿島神宮の神様が鹿の背中に乗って奈良の春日大社へ影向(ようごう)されたという伝承のある由緒ある鹿です。奈良公園の鹿

は鹿島神宮の鹿の子孫ということになります。

八王子消化器病院の第二代の理事長羽生富士夫先生は鹿島の出身で茨城大使(茨城観光大使ではないとのことでした。)もされていました。平成21年11月8日には、八王子消化器病院友の会恒例のバス旅行で鹿島神宮に参拝したことがあり、私共も参加させていただきました。羽生先生が鹿島神宮の鳥居前で車椅子に乘られて、一行を出迎えて下さったことが思い出されました。羽生先生の生家は水戸の徳川斉昭公が立ち寄られたとの記録も残る旧家ですが、羽生先生から祖先は鹿島神宮の権宮司だったと直接お聞きしたことがあります。この作品はそれ自体大変素晴らしいものですが、羽生先生とのお縁も感じられ私も大変気に入りました。作者のお母様の幼馴染が羽生先生のご親戚ということも後日わかりました。

八王子消化器病院では、平成14年11月22日第一回ロビーコンサートが開催され、以来今日まで職員の皆様の多大な努力によりロビーコンサートが続けられております。このロビーコンサートは羽生先生が「病院において良質な医療を提供するのは

当然だが、それだけでは患者さんにとって十分ではない。患者さんが病氣と闘っていくためには患者さんの心の慰めとなるもの、心の潤いとなるものが 필요하다。」と考えられ、私財を出捐しグランドピアノを購入して病院に寄贈されて始まったものです。私の妻典子は令和2年1月に他界致しましたが、私共の家族は妻典子も含めてこれまで八王子消化器病院に大変お世話になってきました。私共の感謝の気持ちとして誠にささやかではありますが、ロビーコンサートが始まることとなった羽生先生のお考えにも添うものと思い、妻典子の記念の意味を込めて私と妻典子の連名で寄贈させていただきました。

宮本果林氏作 陶製鹿『追憶』



くこととなったものです。

令和2年3月28日には、初代理事長中山恒明先生、第二代理事長羽生先生、第三代理事長鈴木衛先生のお写真が壁に掛かった理事室で贈呈式が行われ、理事長の原田先生から感謝状をいただくという光栄に浴しております。かえって恐縮に思っております。

患者さんがこの作品をご覧になり、病氣回復の希望と力を持つていただく一助となりましたら私共としては嬉しい限りです。

ドクタープロフィール 2020

理事長	原田 信比古 (はらだ のぶひこ)	東京女子医科大学 消化器外科元派遣准教授	専門：◎消化器外科 ◎肝・胆・膵外科
	小池 伸定 (こいけ のぶさだ)	東京女子医科大学 消化器外科非常勤講師	専門：◎消化器外科
副院長	齋田 真 (さいだ しん)	東京女子医科大学 消化器外科元助教	専門：◎消化器外科 ◎腹腔鏡外科 分野：◎がん化学療法
	林 恒男 (はやし つねお)	東京女子医科大学 消化器外科元講師	専門：◎消化器外科 ◎食道外科 分野：◎消化器内視鏡検査・治療
顧問	今泉 俊秀 (いまいずみ としひで)	膵臓病センター長	専門：◎消化器外科 ◎肝・胆・膵外科
	森下 慶一 (もりした けいいち)	東京女子医科大学 消化器内科非常勤講師	専門：◎消化器内科 分野：◎内視鏡的診断処置
医師	尾崎 雄飛 (おざき ゆうひ)	東北大学医学部 第二外科元医員	専門：◎消化器外科
	伴野 繁雄 (ばんの しげお)	東京女子医科大学 消化器内科元医員	専門：◎消化器内科
医師	柏木 宏幸 (かしわぎ ひろゆき)	東京女子医科大学 消化器内科助教	専門：◎消化器内科
	今里 亮介 (いまざと りょうすけ)	東京女子医科大学 消化器・一般外科医療練士	専門：◎消化器外科

◎化学療法外来

医師：川上 和之

東京女子医科大学
化学療法・緩和ケア科元准教授

◎膠原病・リウマチ・痛風外来

医師：高木 香恵

東京女子医科大学東医療センター
内科講師

◎糖尿病外来

医師：大野 敦

東京医科大学八王子医療センター
糖尿病・内分泌・代謝内科兼任准教授

医師：松下 隆哉

東京医科大学八王子医療センター
糖尿病・内分泌・代謝内科講師

想うこと



「ロビーコンサート」100回公演を阻む 新型コロナウイルス

入院療養中の患者様の心を支え、安らぎを届けたい、との思いから18年前に始まったロビーコンサートは、順調に回を重ね昨年末には98回を数え、今年は100回の記念すべき日を迎える筈でした。ところが、年初からのコロナ禍の煽りを受け、現在は中断を余儀なくされています。

コンサートの再開は患者様方・出演者、そして私達職員の切なる願いであり、長らく続く自粛生活による沈うつな空気が漂うこのような時こそ、音楽の持つ力が必要ではないかと思います。あの感動を皆様と共有できる日の遠くないことを心待ちにしております。

理事 久野久夫

諸々の 命に捧ぐ コンサート
再開願う 想いは熱く